

順送り訳における聞き手の主観的・客観的理解度の比較分析

児島 ひかる¹ 胡 尤佳² 大内 啓樹¹ サクテイ サクリアニ¹

¹ 奈良先端科学技術大学院大学 ² カールスルーエ工科大学

kojima.hikaru.kl6@naist.ac.jp yuka.ko@kit.edu

{hiroki.ouchi, ssakti}@is.naist.jp

概要

同時機械翻訳では、語順の違いによって生じる遅延を抑える方法として、順送り方略が広く用いられている。この方法では、発話をより小さな単位であるチャンクに分割し、それらを順番に訳出していく。本方略は、冗長な訳文を生み出し、かえって理解を妨げる可能性があるとも指摘されてきた。しかし、順送り方略が聞き手に与える理解度を客観的に測定し、分析した研究は十分ではない。そこで本稿では、同時機械翻訳の前提となる順送り訳と、日本語で一般的な語順とされる逆送り訳とを比較し、聞き手の理解度に差異が生じるかどうかを検証する。比較実験の結果、興味深いことに、順送り訳は逆送り訳よりも内容理解テストの正答率が高い傾向が確認された。一方で、主観的な「理解のしやすさ」は順送り訳の方が低く評価された。順送り訳は主観的評価こそ低いものの、客観的な理解度はむしろ高い傾向があることが示された。

1 はじめに

同時機械翻訳（同時翻訳）とは、発話の完了を待たずに翻訳を生成することで、高いリアルタイム性を実現する機械翻訳技術である。英語と日本語のような語順が大きく異なる言語対において、語順の差異に起因する遅延を緩和する手法として「順送り方略」が広く用いられる。この訳出は発話をより短い単位であるチャンクに区切り、前から順次訳出していく方略である。順送り方略は低遅延を実現する一方で、冗長な訳文を生成しやすく、それが聞き手の理解を妨げる可能性が指摘されている [1]。もし、順送り訳によって聞き手の理解が毀損されるのであれば、順送り訳を用いて同時機械翻訳システムを構築・利用することは、ユーザー体験の観点で問題となりうる。そこで本稿では、同時機械翻訳の前提となっている順送り訳を、日本語で標準的な語順とさ

れる逆送り訳（具体例は表 2 を参照）と比較し、聞き手の理解度に差異が生じるのかを検証する。

2 読みの負荷に関する先行研究

順送り訳の特性と課題 福田ら [1] は、順送り訳を「チャンク単位で交差量および省略が 0」と定義し、評価データを構築した上で、その特性を分析している。ここで交差量とは、原文のチャンクの位置を基準にしたとき、訳文のチャンクの位置が右方向に移動したチャンクの数である [2]。その結果、順送り訳の訳出量は、短縮方略を用いる同時通訳と比較して顕著に増加するだけでなく、時間的制約のないオフライン翻訳と比較しても長くなる傾向が示された。この長大化の要因として、彼らは語順制約下で流暢さを保つために不可欠な「繰り返し」等の処理を挙げている。こうした訳出量の増加は聞き手の疲労感を高め、理解を阻害する可能性があるとも指摘されている。

繰り返しの発生要因 Doi ら [3] は、福田ら [1] が構築した評価データを用いて訳出方略を分析し、原文の語順を維持するために「繰り返し」が多用されることを報告している。その頻度は計 301 回に及ぶが、その発生要因を構文ごとに内訳すると、「名詞の後置修飾」に起因するものが 88 回と最も多く、全体の約 29% を占めていた。この結果は、日本語の統語構造上、後置修飾の処理が順送り訳において特に訳出が長くなり、聞き手にとって理解がしづらくなる可能性が高いことを示唆している。そこで本研究では、後置修飾構造の代表的な形式である「関係節」に焦点を当てて検証を行う。

読みの負荷と定義の相違 山田ら [4] は、関係節を含む英文を対象に、アイトラッキングを用いて読解時の認知負荷を検証している。実験では、関係節を先行詞の前に訳出する「逆送り訳」と、先行詞の後ろに訳出する「順送り訳」を比較した。その結果、関係節を後置する順送り訳の方が、逆送り訳よ

りも読み時間が有意に短く、読みの負荷が低いことが示された。なお、同研究における順送り訳は「交差量が相対的に低い訳」と定義されており、前述した福田ら [1] による「チャンク単位で交差量および省略が 0」という定義とは基準が異なる点に留意が必要である。

3 実験デザイン

3.1 リサーチクエスチョン

RQ1 (主目的): 順送り訳は逆送り訳（自然な訳）と比べて理解度は変わるのか？ また、その差は関係節長によって変化するのか

RQ2 (副目的): 主観評価（理解のしやすさ）と客観的な理解度との間に整合性はあるのか？

3.2 実験参加者

実験参加者の募集基準は、日本語母語話者であることとした。募集の結果、実験参加者は計 60 名となった。参加者の年代は、20 代 2 名、30 代 20 名、40 代 21 名、50 代 13 名、60 代以上 4 名であった。参加者は、翻訳タイプ（順送り訳／逆送り訳）2 種類とスクリプトの提示順序（短・中・長の順列）6 種類の組み合わせからなる計 12 条件のいずれか 1 つにランダムに割り当てられた。各条件の参加者数は 3~7 名で概ね均等であり、 χ^2 検定の結果、条件間の人数分布 ($\chi^2 = 4.40, p = .96$) および年齢分布 ($\chi^2 = 1.31, p = .86$) に有意な偏りは認められなかった。

3.3 実験スクリプトの作成方法

実験スクリプトとして、GPT-5 を用いて**起承転結の構成を持つ 4 文からなる英文**を作成した。本実験の操作対象である関係節は、この 4 文のうちの**いずれか 1 文**に配置されている。この関係節の長さを、構成するチャンク数に基づいて**1 (短)**、**2 (中)**、**3 (長)**と段階的に設定した（以下、各条件を「短・中・長」と呼ぶ）。その上で、本実験の目的に合致するよう人手で以下の修正を加えた。(1) 語彙と構文の複雑性を一定に保った（表 1 参照）(2) 文脈的予測の排除：本実験の物語文においては、主節と関係節の事象間の相互依存性を低減させる操作を行った。具体的には、主節の動詞から関係節の動作主や対象が容易に推測できる文脈（例：主節で「A が B に手を振る」という描写があり、そこから関係節の「(B

表 1 実験スクリプト（原文）の統計的指標。語彙レベル (Avg Zipf) および構文的複雑さ (Avg Dep Dist) の比較。

指標	短	中	長
Avg Zipf (語彙頻度)	5.77	5.72	5.72
Avg Dep Dist (構文密度)	1.73	1.94	1.98

が A に) 手を振り返す」といった定型的な反応が予測できてしまう文) を避けた。これは、聞き手が関係節の構文構造を処理せずとも、主節の文脈情報だけで動作主を特定できてしまう可能性を排除し、純粋な構文処理による理解を評価するためである。使用した全ての実験スクリプトは付録 A に示す。

3.4 順送り訳および逆送り訳の作成

作成した英語スクリプトに対し、翻訳方略の違いによる影響を検証するため、「順送り訳」と「逆送り訳」の 2 種類の日本語訳を作成した。なお、関係節を含まない文については、両条件で全く同一の訳文を使用した。関係節を含む文についてのみ、以下の基準で訳し分けた（訳出例は表 2 を参照）。

共通事項: 両条件とも、使用する単語（語彙）は原則として統一し、語順のみを操作した。また、訳出の作成にあたっては、GPT-5 を用いて初期案を生成した後、以下の定義に厳密に合致するよう著者が手動で修正を加えた。なお、チャンクの区切り方は岡村・山田 [2] の基準に準拠し、すべてのスクリプトで統一した基準を適用した。

順送り訳: 福田ら [1] の定義に従い、チャンク単位での交差量および省略がいずれも 0 となるように訳文を作成した。英語における関係節は後置修飾であるため、日本語で語順をできる限り保持して翻訳する際には、まず先行詞を含む主節を訳し、その後で関係節部分を訳出した。そのうえで、両者が不自然にならないよう、つなぎとなる表現や語の繰り返し訳出を適宜用いることで、必要最低限の流暢さを確保した。

逆送り訳: 順送り訳と比較して、チャンク単位で交差量は 1 以上で省略が 0 となり、先行詞を修飾するように作成した。日本語の標準的な統語構造である「修飾語 + 被修飾語」の語順に従った翻訳である。これを本実験におけるベースライン（自然な語順の訳）とした。

表2 実験スクリプト（中条件）の詳細構成.

項目	内容 (Cafe Scene)
原文	After weeks of busy schedules, a woman met a colleague at their usual café. The woman leaned toward the colleague who shared stories from the demanding team project with her . The rain gently brushed the window while they talked about ordinary topics. By the time they said goodbye, the atmosphere between them had grown calm and familiar.
逆送り訳	何週間も忙しいスケジュールが続いた後、ある女性がいつものカフェで同僚と会った。雨が窓を打つ中、 [大変なチームプロジェクトの話 を彼女と共有してくれた] 同僚の方へ、女性は身を乗り出した。別れを告げる頃には、二人の間の雰囲気は穏やかで親しみのあるものになっていた。
順送り訳	何週間も忙しいスケジュールが続いた後、ある女性がいつものカフェで同僚と会った。雨が窓を打つ中、女性は同僚の方へ身を乗り出した、 [その同僚は話を共有してくれていた、大変なチームプロジェクトについて彼女と] 。別れを告げる頃には、二人の間の雰囲気は穏やかで親しみのあるものになっていた。
Q1 (主節)	問: どの文が内容として正しいですか? 正答: 女性は同僚の方へ身を乗り出した。
Q2 (関係節)	問: プロジェクトの話を共有したのは誰ですか? 正答: 同僚が女性に話を共有した。
Q3 (詳細)	問: 共有された話の内容として正しいものはどれですか? 正答: 骨の折れるチームプロジェクトについての話。
Q4 (全体)	問: 全体の内容として最も適しているものを選択してください。 正答: 何週間も忙しい日々が続いた後、ある女性がいつものカフェで同僚と会った。雨が窓を打つ中、同僚との会話を通じて、日常の話題について語り合った。別れる頃には、二人の間の雰囲気は温かく親しいものになっていた。

3.5 内容理解テスト

各スクリプト提示後に4つの設問(4択式)を課した(表2)。条件ごとのスクリプト間の比較を行うため、設問の構成を下記の通りに統一した。Q1・Q2(意味役割理解)では、Sasakiら[5]を参考に、主節および関係節それぞれの動作主と被動作主(誰が誰に何をしたか)を問うた。Q3(関係節の情報保持)では、関係節内の修飾語句(表2: 大変な)の記憶を測定した。なお、単なる語形照合を防ぎ意味的な定着を測るため、正解肢は「骨の折れる」のようにパラフレーズし、誤答には対義語や類似概念を配置した。Q4(全体の文脈理解)では、スクリプト全体の状況把握を問うた。ここではQ1-3の回答を推測させないよう、関係節を含む文の内容を抽象化(表2: 同僚との会話を通じて)して提示し、それ以外の文を正しく理解しているかを検証した。

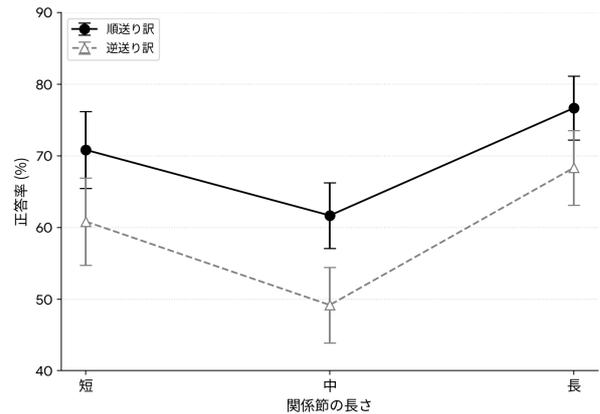


図1 関係節の長さと言訳タイプによる正答率の比較

3.6 実験手順

実験は Gradio を用いて構築し、音声刺激には VOICEVOX (話者: ずんだもん, 標準設定) を用いた。参加者は1試行の練習で合成音声および手順に慣れた後、本試行を以下の手順で実施した。(1) 実験の流れとスクリプトの概要を画面に提示し、同意を得る。(2) 音声を再生してリスニングを行う(再生不可)。(3) 内容理解テスト(4問)を行う。(4) 主観評価を行う。なお、参加者は順送り訳か逆送り訳のいずれか一方のみを聞き、スクリプトの提示順序は、順序効果を相殺するためカウンターバランスをとった。つまり、翻訳タイプ(順送り訳/逆送り訳)とスクリプトの提示順序(短・中・長の順列)6種類の組み合わせからなる計12条件のいずれか1つに参加者をランダムに割り当てた。手順4の主観評価では、聞き手の主観的な感覚を測る目的で、「日本語の自然さ」、「理解のしやすさ」、および認知負荷の指標として「リスニングの処理負荷」の3項目について5段階のリッカート尺度で回答を求めた。

4 順送り訳と聞き手の理解度の関係

4.1 順送り訳 vs 逆送り訳: 客観的理解度

聞き手の理解度を正答(0/1)とし、二項ロジットの一般化線形混合モデル(GLMM)を用いて分析を行った。固定効果として「訳タイプ(順送り/逆送り)」および「関係節長(短/中/長)」を、ランダム効果として「参加者ID」を含めた。まず、訳タイプの効果が関係節長によって変化するかを検証するため、交互作用を含むモデルと含まないモデルを尤度比検定で比較した。その結果、交互作用を含めてもモデルの当てはまりに有意な改善は認められ

表3 主観的認知負荷の比較. 統計的有意差には至らなかったものの, 全ての条件で順送り訳の負荷が一貫して低い傾向が見られた(5段階評価).

条件	順送り	逆送り	差	p 値
短	3.07	3.40	-0.33	0.19
中	3.47	3.57	-0.10	0.72
長	3.23	3.43	-0.20	0.51

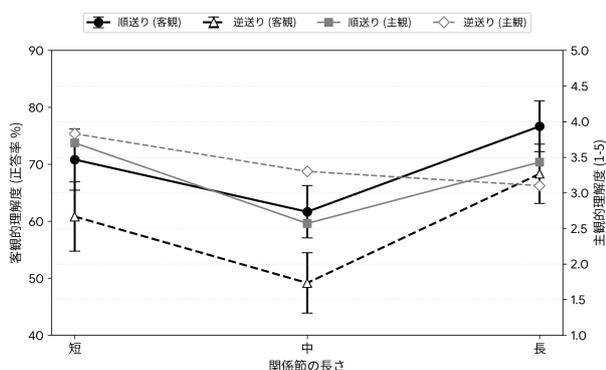


図2 関係節の長さごとの客観的理解度(正答率)と主観的理解度(理解のしやすさ)の比較.

ず ($\chi^2(2) = 0.13, p = .937$), 訳タイプの効果は関係節の長さによらず概ね一貫していることが示唆された. 交互作用なしモデルに基づく推定では, 順送り訳は逆送り訳よりも正答オッズが高い傾向が見られた (Odds Ratio [OR] = 1.67, 95%CI[0.97, 2.86], $p = .063$). この結果は, これまで懸念されていたように順送り訳が理解を阻害しているわけではなく, むしろ全体的な傾向として, 自然な訳である逆送り訳よりも理解しやすい可能性を示唆している.

4.2 主要部後置と認知負荷

なぜ順送り訳の客観的理解度が高かったのか. その要因として, 日本語の統語構造に起因する認知負荷の違いが挙げられる. 水野 [6] が指摘するように, 日本語のような主要部後置型言語では, 主要部が出現するまで修飾語を作動記憶内に保持し続ける必要がある. 逆送り訳 (表2: 「[...] 共有してくれた」同僚) では, 主要部である「同僚」に至るまで情報を未統合のまま保持する「待ち時間」が生じ, これが認知資源を圧迫したと考えられる. 対して順送り訳では, 主要部を早期に処理できるため, 情報の保持コストが軽減されたと推察される. 主観評価の結果においても, 認知負荷の観点から本仮説を支持する傾向が見られた (表3). t検定の結果, 有意差には至らなかったものの, 全ての長さの条件において順送り訳の方が負荷が低い傾向が一貫して確認された.

4.3 主観・客観評価のズレ (流暢性の錯覚)

一方で, 主観評価の結果は客観的理解度とは対照的であった. まず, 各群における主観的理解度 (5段階) と客観的な内容理解テストの正答率の平均値を比較すると, 興味深い逆転現象が見られた. 主観的な「理解のしやすさ」においては, 逆送り群 ($M = 3.41$) が順送り群 ($M = 3.23$) を上回る傾向を示した. しかし, 実際の正答率においては, 逆送り群 (59.4%) は順送り群 (69.7%) を下回る結果となった ($p < .10$). この「手応えと実際のズレ」を検証するためピアソンの相関分析を行った結果, 主観的理解度と内容理解テストの正答率の相関係数は全体で $r = 0.13$ と極めて低く, 有意な相関は見られなかった. その要因として, 訳文の「自然さ (流暢性)」の影響が考えられる. 実際, 各群の「自然さ」の主観評価平均は, 順送り群の 3.52 に対し, 逆送り群は 3.82 と高かった. さらに相関分析の結果, 「自然さ」と「主観的理解度」の間には $r = 0.61$ ($p < .01$) という強い正の相関が確認された. 以上のデータから, 以下のメカニズムが示唆される. 日本語として自然な語順である逆送り訳は高い自然さ (流暢性) を持つため, 聞き手は「内容を理解できた」と誤認しやすい (流暢性の錯覚). しかし実際には, 主要部の出現前に多数の修飾語が介在する逆送り訳は作動記憶への負荷が高く, 語順の並べ替えによる処理負荷や情報の欠落が生じ, 結果として内容理解テストの正答率は低下したと考えられる.

5 おわりに

本稿では, 同時機械翻訳における順送り訳が聞き手の理解度に与える影響を検証した. リサーチクエストンに対する結論は以下の通りである. 第一に, **RQ1 (客観的理解度)** について, 順送り訳は自然な語順の逆送り訳と比較しても内容理解テストの正答率が高い傾向が確認された. この結果は, 順送り訳が主要部を早期に提示することで, 聞き手の作動記憶への認知負荷を軽減したためと考えられる. この傾向は関係節の長さによらず一貫していた. 第二に, **RQ2 (主観と客観の整合性)** について, 両者の間に整合性は見られなかった. 客観的には順送り訳の成績が良いにもかかわらず, 主観的には逆送り訳の方が「わかりやすい」と評価される評価の逆転が生じた. これは, 逆送り訳の自然な語順がもたらす「流暢性の錯覚」に起因する可能性が示唆される.

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP23K28148 の助成を受けたものです。

参考文献

- [1] 福田りょう, 土肥康輔, 須藤克仁, 中村哲. 原発話に忠実な英日同時機械翻訳の実現に向けた順送り訳評価データ作成. 情報処理学会研究報告自然言語処理 (NL), Vol. 2024-NL-259, No. 14, pp. 1–6, 2024.
- [2] 岡村ゆうき, 山田優. 「順送り訳」の規範と模範: 同時通訳を模範とした教育論の試論. 石塚浩之 (編), 英日通訳翻訳における語順処理–順送り訳の歴史・理論・実践–, pp. 217–250. ひつじ書房, 2023.
- [3] Kosuke Doi, Yuka Ko, Mana Makinae, Katsuhito Sudoh, and Satoshi Nakamura. Word order in english-japanese simultaneous interpretation: Analyses and evaluation using chunk-wise monotonic translation. In *Proceedings of the 21st International Conference on Spoken Language Translation (IWSLT 2024)*, pp. 254–264, Bangkok, Thailand, 2024. Association for Computational Linguistics.
- [4] 山田優, 溝脇孝哲, 小川陽香, 岡村ゆうき, 平岡裕資. 順送り訳と逆送り訳における翻訳読者の読みの負荷. 石塚浩之 (編), 英日通訳翻訳における語順処理–順送り訳の歴史・理論・実践–, pp. 251–270. ひつじ書房, 2023.
- [5] Miho Sasaki, Richard G. Schwartz, Masaki Hisano, and Makihiko Suzuki. Relative clause sentence comprehension by japanese-speaking children with and without specific language impairment. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research*, Vol. 64, No. 6, pp. 1929–1943, 2021.
- [6] 水野的. 翻訳における認知的負荷と経験的等価: 読者の文理解と作動記憶をめぐって. 翻訳研究への招待, Vol. 2, pp. 101–120, 2008.

A 実験スクリプトおよび内容理解テストの全条件データ

条件	原文 (English)	訳文 (Japanese)	内容理解テスト (Comprehension Test)
短	<p>[Park Scene] The park was calm under the soft afternoon sun. Children ran around the benches near an old man in an atmosphere of laughter. The kids smiled at the senior who greeted them modestly. For a short moment, the world seemed lighter and full of kindness.</p>	<p>【順送り訳】 公園は穏やかな午後の日差しの下で落ち着いた雰囲気だった。子供たちは老人が座っていたベンチの周りを笑いながら走り回っていた。子供たちは老人に微笑んだ。その老人は控えめな声で彼らに挨拶してくれたのだ。ほんの一瞬、世界はより軽く優しさに満ちているように感じられた。</p> <p>【逆送り訳】 公園は穏やかな午後の日差しの下で落ち着いた雰囲気だった。子供たちは老人が座っていたベンチの周りを笑いながら走り回っていた。控えめな声で挨拶した老人に、子供たちは微笑んだ。ほんの一瞬、世界はより軽く優しさに満ちているように感じられた。</p>	<p>Q1: どの文が内容として正しいですか？ A) 通行人は老人に微笑んだ。 B) 老人は子供たちに微笑んだ。 C) 子供たちは老人に微笑んだ。 D) 子供たちは通行人に微笑んだ。 Q2: 挨拶をしたのは誰ですか？ A) 通行人が老人に挨拶した。 B) 子供たちが老人に挨拶した。 C) 老人が子供たちに挨拶した。 D) 老人が通行人に挨拶した。 Q3: どのように挨拶しましたか？ A) 元気な声 B) 弱々しい声 C) 冷たい声 D) 静かな声で挨拶した。 Q4: 全体の内容として最も適しているものを選択してください。 A) [正答] 公園は午後穏やかな日差しに包まれ、落ち着いた雰囲気だった。子供たちは老人が座っていたベンチの周りを笑いながら走り回っていた。老人とのやり取りの中で、ほんのひととき、世界がより軽やかで優しさに満ちたものを感じられた。 B) (A)と同様だが、最後が異なる) ... 世界はより重く緊張に満ちているように感じられた。 C) (A)と同様だが、最初が異なる) 公園は騒がしい午後の強い日差しの下で慌ただしい雰囲気だった... D) (A)と同様だが、中盤が異なる) ... 子供たちは老人が座っていたベンチの周りを泣きながら走り回っていた...</p>
中	<p>[Cafe Scene] After weeks of busy schedules, a woman met a colleague at their usual café. The woman leaned toward the colleague who shared stories from the demanding team project with her. The rain gently brushed the window while they talked about ordinary topics. By the time they said goodbye, the atmosphere between them had grown calm and familiar.</p>	<p>【順送り訳】 何週間も忙しいスケジュールが続いた後、ある女性がいつものカフェで同僚と会った。女性は同僚の方へ身を乗り出した。その同僚は話を共有してくれて、大変なチームプロジェクトについて彼女と、雨が優しく窓を叩く中、二人は日常的な話題について語り合った。別れを告げる頃には、二人の間の雰囲気は穏やかで親しみのあるものになっていた。</p> <p>【逆送り訳】 何週間も忙しいスケジュールが続いた後、ある女性がいつものカフェで同僚と会った。大変なチームプロジェクトの話を共有してくれた同僚の方へ、女性は身を乗り出した。雨が優しく窓を叩く中、二人は日常的な話題について語り合った。別れを告げる頃には、二人の間の雰囲気は穏やかで親しみのあるものになっていた。</p>	<p>Q1: どの文が内容として正しいですか？ A) 同僚は女性の方へ身を乗り出した。 B) 女性は同僚の方へ身を乗り出した。 C) 店員は女性の方へ身を乗り出した。 D) 女性は店員の方へ身を乗り出した。 Q2: プロジェクトの話を共有したのは誰ですか？ A) 同僚が女性に話を共有した。 B) 女性が同僚に話を共有した。 C) 店員が女性に話を共有した。 D) 女性が店員に話を共有した。 Q3: 共有された話の内容として正しいものはどれですか？ A) 骨の折れるチームプロジェクトについての話。 B) 楽なチームプロジェクトについての話。 C) やりがいのあるチームプロジェクトの話。 D) 退屈なチームプロジェクトの話。 Q4: 全体の内容として最も適しているものを選択してください。 A) [正答] 何週間も忙しい日々が続いた後、ある女性がいつものカフェで同僚と会った。雨が窓を叩く中、同僚との会話(プロジェクトの話など)に熱心に耳を傾けた。別れる頃には、二人の間の雰囲気は温かく親しいものになっていた。 B) (A)と同様だが、最後が異なる) ... 別れる頃には、二人の間の雰囲気はよそよそしく距離のあるものになっていた。 C) (A)と同様だが、最初が異なる) ... 雨が止み穏やかな日差しが差し込む中、同僚との会話に熱心に耳を傾けた... D) (A)と同様だが、中盤が異なる) ... 同僚と激しい口論になり、...</p>
長	<p>[Commuting to Work] The train was congested but not yet packed that morning. A woman remained by the door, holding a lukewarm cup of coffee while watching the city blur past. As the carriage jolted, the woman caught the eye of a colleague positioned a few feet away. The woman smiled at the colleague who gently waved to get her attention with a visibly tired but kind expression.</p>	<p>【順送り訳】 今朝の電車は混んでいたが、まだぎゅうぎゅうというほどではなかった。女性はぬるくなったコーヒーを片手に、ドアのそばで流れていく街を眺めていた。車両が揺れたとき、女性は数メートル先にいる同僚と目が合った。女性は同僚に微笑みかけた。その同僚はそっと手を振っていた、注意を引くために、明らかに疲れているが優しい表情で。</p> <p>【逆送り訳】 今朝の電車は混んでいたが、まだぎゅうぎゅうというほどではなかった。女性はぬるくなったコーヒーを片手に、ドアのそばで流れていく街を眺めていた。車両が揺れたとき、女性は数メートル先にいる同僚と目が合った。明らかに疲れているながらも優しい表情で、そっと手を振って注意を引こうとする同僚に、女性は微笑みかけた。</p>	<p>Q1: どの文が内容として正しいですか？ A) 同僚は乗客に微笑みかけた。 B) 同僚は女性に微笑みかけた。 C) 女性は乗客に微笑みかけた。 D) 女性は同僚に微笑みかけた。 Q2: 手を振ったのは誰ですか？ A) 女性が同僚に手を振った。 B) 同僚が女性に手を振った。 C) 乗客が女性に手を振った。 D) 女性が乗客に手を振った。 Q3: 同僚はどのような様子でしたか？ A) 疲れた様子だったが柔らかい表情をしていた。 B) 疲れた様子で険しい表情をしていた。 C) 元気な様子で穏やかな表情をしていた。 D) 疲れた様子だったが安堵した表情をしていた。 Q4: 全体の内容として最も適しているものを選択してください。 D) [正答] 今朝の電車は混雑していたものの、ぎゅうぎゅう詰めとまではいかなかった。女性はぬるくなったコーヒーを手に持ち、ドア付近で窓の外を流れる景色を見つめていた。電車が揺れた瞬間、少し離れた場所にいる同僚と視線が合い、女性は同僚と交流した。 A) (D)と同様だが、中盤が異なる) ... 車両が停止したとき、女性は数メートル先にいる同僚と目が合い、... B) (D)と同様だが、最初が異なる) 今朝の電車はガラガラだったが、まだ座席が余っているというほどではなかった... C) (D)と同様だが、中盤が異なる) ... 女性は淹れたて熱々のコーヒーを片手に、...</p>